

千葉県菌類誌 (II) 大型担子菌類追加目録

吹春俊光¹⁾・腰野文男²⁾・服部 力³⁾
大作晃一⁴⁾・小沼良子⁵⁾

¹⁾千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

E-mail: fukiharu@chiba-muse.or.jp

²⁾〒287-0003 佐原市佐原イ 1524-10

³⁾独立行政法人 森林総合研究所

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

⁴⁾〒270-0114 千葉県流山市東初石 2-84-10

⁵⁾〒260-0851 千葉市中央区矢作町 991-130-201

要 旨 千葉県立中央博物館では 1989 年の開館以来、千葉県産大型菌類の調査と目録作りをすすめている。今回、吹春ほか (1995; 488 種類) の報告後、1994 年 11 月から 2001 年 12 月 6 日までの約 7 年間に千葉県立中央博物館で収集した大型担子菌類の標本と情報を基に、千葉県に新たに産することが明らかになった種類の追加目録を作成した。その結果、千葉県が基準産地となった *Amanita concentrica* シロオビテングタケを含む 115 種類が新たに追加され、千葉県産種として合計 603 種類 (49 科 210 属 591 種 8 変種 4 品種) の大型担子菌の発生が明らかになった。

キーワード: 大型担子菌, 菌類相, 千葉県, ハラタケ目, ヒダナシタケ目, 房総半島。

1989 年の千葉県立中央博物館の発足以来、博物館では千葉県 (房総半島) の大型菌類相の解明をすすめている。その間、吹春ほか (1995) は千葉県産大型担子菌類の目録を作成し、千葉県から 488 種類 (47 科 188 属 478 種, 1 亜種, 6 変種, 3 品種) の大型担子菌が発生することを報告した。その後、千葉県立中央博物館で新たに収集された大型担子菌類の標本と情報に基づき、今回分布が新たに明らかになった千葉県新産種の追加目録を作成した。

方 法

吹春ほか (1995) の報告資料 (資料収集期間は、1986 年 4 月から 1994 年 10 月 31 日) 以降、1994 年 11 月 1 日から 2001 年 12 月 6 日までの約 7 年間に、千葉県立中央博物館 (以下博物館) に収集された千葉県産大型担子菌類に関する資料 (標本 3926 点, 発生情報 1248 点, 合計 5174 点の記録) に基づいて、千葉県に新たに産することが明らかになった大型担子菌類の、追加の目録を作成した。作成にあたっては、5174 点の記録のうち、担子菌ハラタケ目とヒダナシタケ目を中心に、既に同定作業が完了したものについて目録を作成した。今回追加した種で、1 点以上の標本引用があるものについては目撃情報も記録に加えた。作業の過程で、1994 年 11 月以前に収集された標本についても、前報以降に種名が判明したものは、目録に加え

た。子囊菌チャワントケ類に関しては、別途目録を作成した (長尾・吹春, 2002)。採集した標本の同定にあたっては、ハラタケ目の同定を主に吹春が、ヒダナシタケ目の同定を服部が担当し、それ以外の者が同定した記録に関しては、目録の最後に同定者を明示した。今回千葉県に分布が明らかになった種以外に、吹春ほか (1995) に既に掲載された種、すなわち、千葉県の菌類相を考える上で重要なもの (ニオウシメジ、バカマツタケ、チャオニテングタケ、キヌガサタケ)、分類的な扱いが変更になったもの (キタマゴタケ)、発生が珍しいもの (タマゴタケの白色型) の 6 種を重複して目録に加えた。加えるにあたり、千葉新産種との区別ができるように、種名の頭に★印をつけた。また、吹春ほか (1995) 以降に出された千葉県産大型菌類に関する目録、すなわち千葉市 (腰野・吹春, 1997; 275 種)、袖ヶ浦市 (川名, 1997; 38 種)、大栄町 (腰野, 1997b; 55 種)、佐倉市 (吹春・腰野, 2000; 211 種類) の目録に掲載されたもので今回の千葉新産種としてあつかったものについては、文献の引用とともに、それぞれの記録 (産地、年月日など) も加えた。

結 果

以下の目録に示す 116 種類 (113 種 2 変種 1 品種) の大型担子菌が、千葉県産として新たに産することが明らかになり、これまでの記録に千葉新産として 2 科

22 属が追加され、合計 604 種類 (49 科 210 属 592 種 8 変種 4 品種) の大型担子菌が発生することが明らかになった。吹春 (1996, 1998a, b, 1999a, 2000c) は、千葉県 (房総半島) の大型菌類群集は、房総の代表的な植生である、1) シイ・カシの常緑樹林、2) マツの植栽林、3) イヌシデ・コナラの雑木林、また丘陵地帯にみられる、4) モミ林に、その森林特有の菌根菌・腐生菌群集がみられ、この 4 つの植生の優先樹種と共生し、また基物とする菌類が千葉県を代表する菌類群集であるとしているが、今回新たに分布が明らかになった菌種もそれらの特徴をよくあらわす種が多かった。

目録は今関・本郷 (1987, 1989) による分類体系の順に基本的に従い配列した。科内、属内は、属名・学名のアルファベット順に配列した。それぞれの種の標本採集記録については、種名、和名、採集地、採集年月日、採集者、県立中央博物館登録番号 (CBM-FB) の順に示した。ヒダナシタケ目は服部が、ハラタケ目とそれ以外は吹春が同定をおこなったが、著者以外の同定による標本については、同定者を明記した。登録番号は () 内に示した。採集地の記録は市、区、町、村の行政区画単位で示し、千葉県メッシュマップ (千葉県立中央博物館, 1990) による位置情報が判明しているものはメッシュマップ番号を [] 内に付記した。地名の表記は、千葉市産のものは千葉市を省き区から表示した。以下の地点については詳しい住所の表記を省き以下の名称で地点を表示した: 船橋県民の森 (船橋市大神保町 [1774]), 県立房総風土記の丘 (印旛郡栄町竜角寺 978 [1911]), 佐倉城趾公園 (佐倉市城内町 [2637]), 佐倉市民の森 (佐倉市飯野佐倉市市民の森 [2607]), 佐倉市草笛の丘 (佐倉市飯野草笛の丘 [2607]), 稲毛海浜公園 (千葉市美浜区高浜 7-2-1 稲毛海浜公園 [3365]), 生態園 (千葉市中央区青葉町 千葉県立中央博物館内 [3481]), 青葉の森公園 (千葉市中央区青葉町 [3481]), 千葉市松ヶ丘市民の森 (千葉市中央区松ヶ丘町 [3491]), 千葉市平和公園 (千葉市若葉区多部田町 [3496]), 泉自然公園 (千葉市若葉区野呂町 [3908]), 市原市民の森 (市原市月崎 [5730]), 清和県民の森 (君津市尾崎 [6291]), 大福山 (千葉県市原市石塚字杉賀畑 546 白鳥神社大福山 [5790]), 清澄アラカシ沢 (安房郡天津小湊町清澄山東京大学千葉演習林アラカシ沢 [6911]), 清澄折木沢 (安房郡天津小湊町清澄山東京大学千葉演習林折木沢 [6259])。各団体主催の採集会による採集者の記録は、県立中央博物館は (中央博)、千葉菌類談話会は (千葉菌)、市原植物研究会は (市原植研) と略記した。

標本記録の最後に、1995 年から 2001 年までに収集した文献の情報を加えた。また今回のリスト中、千葉県のレッドリスト種とされたもの (吹春, 1999a) は、(県レッドリスト) の注を、大型菌類の場合 2 ランク (A: 最重要保護生物, B-D: 保護を要する生物) と

あわせて付記した。標本記録の次に、特記すべき種についてはノートとして加えた。

異型担子菌綱 HETEROBASIDIOMYCETES

シロキクラゲ目 TREMELLALES

シロキクラゲ科 Tremellaceae

- 1) *Tremella mesenterica* Retz. Fr. コガネニカワタケ: 清澄折木沢, 6 Oct. 1996, 井口 潔 採集 (CBM-FB 15323), 井口 潔 同定; 佐倉城趾公園, 4 Oct. 1997, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16045). 吹春・腰野 (2000).

アカキクラゲ目 DACRYMYCETALES

アカキクラゲ科 Dacrymycetaceae

- 2) *Guepinia spathularia* (Schw.) Fr. ツノマタタケ: 佐倉城趾公園, 16 Oct. 1996, スギ材上, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 15503); 若葉区大宮町 [3483], 3 Nov. 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 17321). 吹春・腰野 (2000).

真正担子菌綱 EUBASIDIOMYCETES

ヒダナシタケ目 APHYLLOPHORALES

アンズタケ科 Cantharellaceae

- 3) *Cantharellus infundibuliformis* (Scop.) Fr. ミキイロウスタケ: 泉自然公園, 12 Oct. 1996, 千葉菌 採集 (CBM-FB 15428), 井口 潔 同定; 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16858), 本郷次雄 同定; 千葉市松ヶ丘市民の森, 6 Oct. 1997, 小沼良子 採集 (CBM-FB 16109); 船橋県民の森, 14 Oct. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30035); 生態園, 22 Oct. 2001, 松本妙子 採集 (CBM-FB 30826).
- 4) *Gomphus fujisanensis* (Imai) Parmasto フジウスタケ: 市原市民の森, 21 Oct. 1995, 千葉菌 採集 (CBM-FB 14386); 清澄折木沢, モミ・ツガ林, 18 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30109); 夷隅郡大多喜町筒森, 4 Oct. 2001, 夷隅支庁 採集。ノート: 近縁の *G. floccosus* ウスタケに比べ子実体の色が淡く、グアヤクチンキで子実層、肉、傘内側全体が青変する (ウスタケは子実層のみが青変)。モミ・ツガ林に特異的に見られる外生菌根菌。

シロソウメンタケ科 Clavariaceae

- 5) *Clavaria purpurea* Muell. Fr. ムラサキナギナタタケ: 野田市東京理科大構内 [903], 8 Oct. 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 17229).
- 6) *Clavariadelphus pistillaris* (Fr.) Donk スリコギタケ: 市原市月出 [5754], 15 Oct. 2000, 市原植研 採集 (CBM-FB 30055).

- 7) *Pterula multifida* Fr. フサタケ: 泉自然公園, 12 Oct. 1996, 千葉菌 採集 (CBM-FB 15436), 井口 潔 同定; 佐倉城趾公園, 4 Oct. 1997, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16037). 吹春・腰野 (2000).

イドタケ科 Coniophoraceae

- 8) *Gyrodontium sacchari* (Spreng.: Fr.) Hjortstam オガサワラハリヒラタケ: 佐倉城趾公園, 16 Oct. 1996, スギ材上, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 15484); 佐倉市飯塚皇産霊神社, 20 Nov. 1998, スギ倒木上, 腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 24086); 26 Jul. 1999, スギ倒木上, 腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 24262). 吹春・腰野 (2000). ノート: 本菌は小笠原父島産の標本に基づいて Ito and Imai (1940) によって *Boninohydnum pini* S. Ito & Imai として発表された. Maas Geesteranus (1964) はこれを *Gyrodontium versicolor* (Berk. & Br.) Maas G. の異名としたが, Hjortstam (1995) はさらにこれらを *Gyrodontium sacchari* (Spreng.: Fr.) Hjortstam の異名とした. 汎熱帯種で (Hjortstam and Larsson, 1994), 国内では小笠原諸島他, 本州の太平洋岸の温暖な地域で稀に採集されており, 千葉県の特徴をよく示す種である.

イボタケ科 Thelephoraceae

- 9) *Boletopsis leucomelaena* (Pers.) Fayod クロカワ: 市原市石塚, 12 Oct. 2000, 今井節子 採集 (CBM-FB 30018); 市原市月出 [5754], 15 Oct. 2000, 市原植研 採集 (CBM-FB 30076). ノート: 味は苦いが食用とされる. 北半球の針葉樹林に広く分布する.
- 10) *Phellodon niger* (Fr.: Fr.) Karst. クロハリタケ: 市原市石塚 [5780], 6 Oct. 1997, 腰野文男 採集 (CBM-FB 16128). ノート: KOH で子実体は暗緑色変する, 孢子表面には棘があり無色.
- 11) *Sarcodon imbricatus* (Fr.) Karst. シンタケ: 市原市月出 [5754], 15 Oct. 2000, 市原植研 採集 (CBM-FB 30056); 清澄アラカシ沢, 18 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30104). ノート: 食用菌として珍重される *S. aspratus* コウタケに類似するが, 傘のくぼみが浅く孢子が 7-8 μm のものを本種, 傘の中心が深く窪みその表面に粗大な鱗片を密生し孢子が 5-6 μm のものをコウタケとするが, 今後の検討が必要である. 味はやや苦い.

サルノコシカケ科 Polyporaceae

- 12) *Corioloopsis strumosa* (Fr.) Ryv. センベイタケ: 佐倉市岩富八幡宮, 20 Nov. 1998, 腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 24088); 船橋県民の森, 15 Jul. 2001, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30578). 吹春・腰野 (2000). ノート: 旧熱帯域に広く分布する (Ryvarden and Johansen, 1980). 国内では関東地方以南で採集されている.
- 13) *Laetiporus sulphureus* (Fr.) Murrill *sensu lato* アイカワタケ: 清澄折木沢, 16 Jul. 1995, 吉田幸二・大作晃一・徳田あゆみ 採集 (CBM-FB 12944, 12947). ノート: 日本国内の *Laetiporus* 属菌の分類は混乱しており, 今後種の分割・統合が必要である. ここで挙げたものは国内の暖温帯に広く分布するタイプに属すると考えられる.
- 14) *Perenniporia latissima* (Bres.) Ryv. キヨスミカシサルノコシカケ: 今関・本郷 (1989). ノート: 今関・本郷 (1989) は本種を *Fomitella latissima* (Bres.) Aoshi. として掲載したが, 本学名は正式発表のない裸名である. 本種は東南アジアを中心に分布すると考えられるが, 研究者によって種の解釈が異なり混乱している. Corner (1987) は本種の近縁種として, 東南アジア産の 3 新種を記載した. 日本国内では関東地方以南の暖温帯～亜熱帯地域から採集されているが, 国内産のものにも複数の種が混同されている可能性があり, 今後精査が必要である.
- 15) *Polyporus hemicapnoides* Berk. & Br. ネットアイアシグロタケ: 船橋県民の森, 15 Jul. 2001, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30582). ノート: Núñez and Ryvarden (1995) は本種を *P. leprieurii* Mont. の異名としたが, 熱帯地域には類似の種が多く, 慎重な扱いが必要と考えられる. 国内では小林・土居 (1970) によって対馬から初めて記録された. 関東地方以南の暖温帯～亜熱帯地域では比較的普通に見られる.
- 16) *Polyporus tuberaster* (Pers.: Fr.) Fr. タマチョレイタケ: 泉自然公園, 30 Sep. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30687). ノート: 枯木上に発生, 偏心生の柄を有し *P. squamosus* アミヒラタケと類似する. しかし, 南関東地方でしばしば採集されるアミヒラタケ類似菌は培養菌糸の特徴や交配試験の結果等からタマチョレイタケとするのが適当と考えられる. タマチョレイタケは国内冷温帯～亜寒帯地域では中心生の柄を有し傘はラッパ形を示す事が多く, また菌核上に発生することが多い. これに対して, 国内暖温帯では偏心生の柄を有し, 枯木上に発生,

アミヒラタケに類似したものが多い。アミヒラタケは傘径がしばしば 20 cm 以上に達する大型菌で、傘表面の鱗片は繊維状で完全に圧着、また柄の基部の表面は一般に明らかに暗色になり、国内では北海道、青森などの寒冷な地域に分布すると考えられる。一方、タマショレイタケでは一般に傘径 15 cm 以下で、傘表面の鱗片は多少とも立ち、また柄の基部の表面は暗色とならないことが多い。

- 17) *Rigidoporus lineatus* (Pers.) Ryv. スルメタケ：泉自然公園，30 Sep. 1995，千葉菌 採集 (CBM-FB 14072)，井口 潔 同定；佐倉城趾公園，9 Aug. 1999，腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 24287)；佐倉市飯野町，8 Oct. 1999，腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 24422)。吹春・腰野 (2000)。ノート：熱帯地域に広く分布。国内では暖温帯以南で普通。

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

- 18) *Phellinus ferreus* (Pers.) Bourdot & Galzin クロガネアナタケ：県立房総風土記の丘，28 Sep. 1991，服部 力 採集 (TFM-F-16322)；清澄，7 Dec. 1991，服部 力 採集 (TFM-F-16465) (Hattori, 1999)。
- 19) *Phellinus sanfordii* (Lloyd) Ryv. チョウジタケ：泉自然公園，30 Sep. 2000，千葉菌 採集 (CBM-FB 30682)。ノート：アジアの暖温帯以南に分布すると考えられ，国外ではインド，パキスタン，スリランカ等から記録がある (Ryvarden and Johansen, 1980)。国内では暖温帯各地で採集されているが，稀。

ハラタケ目 AGARICALES

ヒラタケ科 Pleurotaceae

- 20) *Panus torulosus* (Pers.: Fr.) Fr. カワキタケ：千葉市稲毛区天台，20 May 2001，伊豆明雄 採集 (CBM-FB 30261)。

ミミナミハタケ科 Lentinellaceae

- 21) *Lentinellus ursinus* (Fr.) Kühner イタチナミハタケ：佐倉市草笛の丘，28 Oct. 1995，近田 隆・近田節子 採集 (CBM-FB 14478)；23 Sep. 1997，近田節子 採集；袖ヶ浦市上蔵波，6 Nov. 1996，中川廣子 採集 (CBM-FB 15683)；清澄折木沢，1 May 1997，大作晃一 採集 (CBM-FB 15739)；市原市月出 [5754]，11 Oct. 1999，市原植研 採集 (CBM-FB 24458)；市原市民の森，13 Sep. 2000，吹春俊光 採集 (CBM-FB 24789)。吹春・腰野 (2000)。

アカヤマタケ科 Hygrophoraceae

- 22) *Camarophyllus subviolaceus* (Peck) Sing. ウバノカサ：千葉市平和公園，16 Jun. 1998，大蔭和子・磯田京子 採集 (CBM-FB 16511)；県立房総風土記の丘，8 Oct. 2001，中央博 採集 (CBM-FB 30768)。
- 23) *Hygrocybe ovina* (Bull.: Fr.) Kühner オオヒメノカサ：泉自然公園，3 Oct. 1998，千葉菌 採集 (CBM-FB 16856)，本郷次雄 同定。
- 24) *Hygrocybe psittacina* (Schaef.: Fr.) Wunsche ワカクサタケ：市原市民の森，21 Oct. 1995，千葉菌 採集 (CBM-FB 14414)。

キシメジ科 Tricholomataceae

- 25) *Clitocybe clavipes* (Pers.: Fr.) P. Kumm. ホテイシメジ：泉自然公園，12 Oct. 1996，千葉菌 採集，本郷次雄 同定。
- 26) *Clitocybe trogioides* Corner var. *odorifera* Har. Takahashi ユキラッパタケ：佐倉城趾公園，4 Oct. 1997，千葉菌 採集 (CBM-FB 16056)，高橋春樹 同定；佐倉市草笛の丘，12 Oct. 1997，佐倉野草会 採集 (CBM-FB 16194)；泉自然公園，30 Sep. 2000，千葉菌 採集；船橋県民の森，14 Oct. 2000，千葉菌 採集 (CBM-FB 30040)；都市緑化植物園，24 Oct. 2000，吹春俊光 採集 (CBM-FB 30139)。ノート：シロサカズキタケに似るが傘の中央部が柄の根元まで貫通し，傘表皮の球形細胞が菌糸の末端に位置する点で異なる。神奈川産標本 (CBM-FB 24119, holotype) をもとに Takahashi (2000) によって記載された。広く南関東に分布し，広葉樹林内の落ち葉堆積上に発生する。
- 27) *Filoboletus manipularis* (Berk.) Sing. アミヒカリタケ：安房郡鋸南町浮島 [6675]，28 Jul. 1987，吹春俊光 採集 (CBM-FB 406)。県レッドリスト A (吹春，1999a)。ノート：本種は吹春ほか (1995) の本文中には引用されているが，目録から落ちていた。Corner (1994) は，*Poromycena manipularis* (Berk.) Heim とすべきとしている。
- 28) *Hohenbuehelia reniformis* (G. Meyer: Fr.) Sing. ヒメムキタケ：泉自然公園，30 Sep. 1995，千葉菌 採集 (CBM-FB 14111)，井口 潔 同定。
- 29) *Lyophyllum sykosporum* Hongo & Clémenceon カクミノシメジ：清澄折木沢，23 Apr. 1995，大作晃一 採集 (CBM-FB 12514)；清澄折木沢，25 Oct. 2000，吹春俊光 採集 (CBM-FB 30145)；市原市月出 [5754]，6 Oct. 1996，市原植研 採集 (CBM-FB 15306)；鶴舞，31

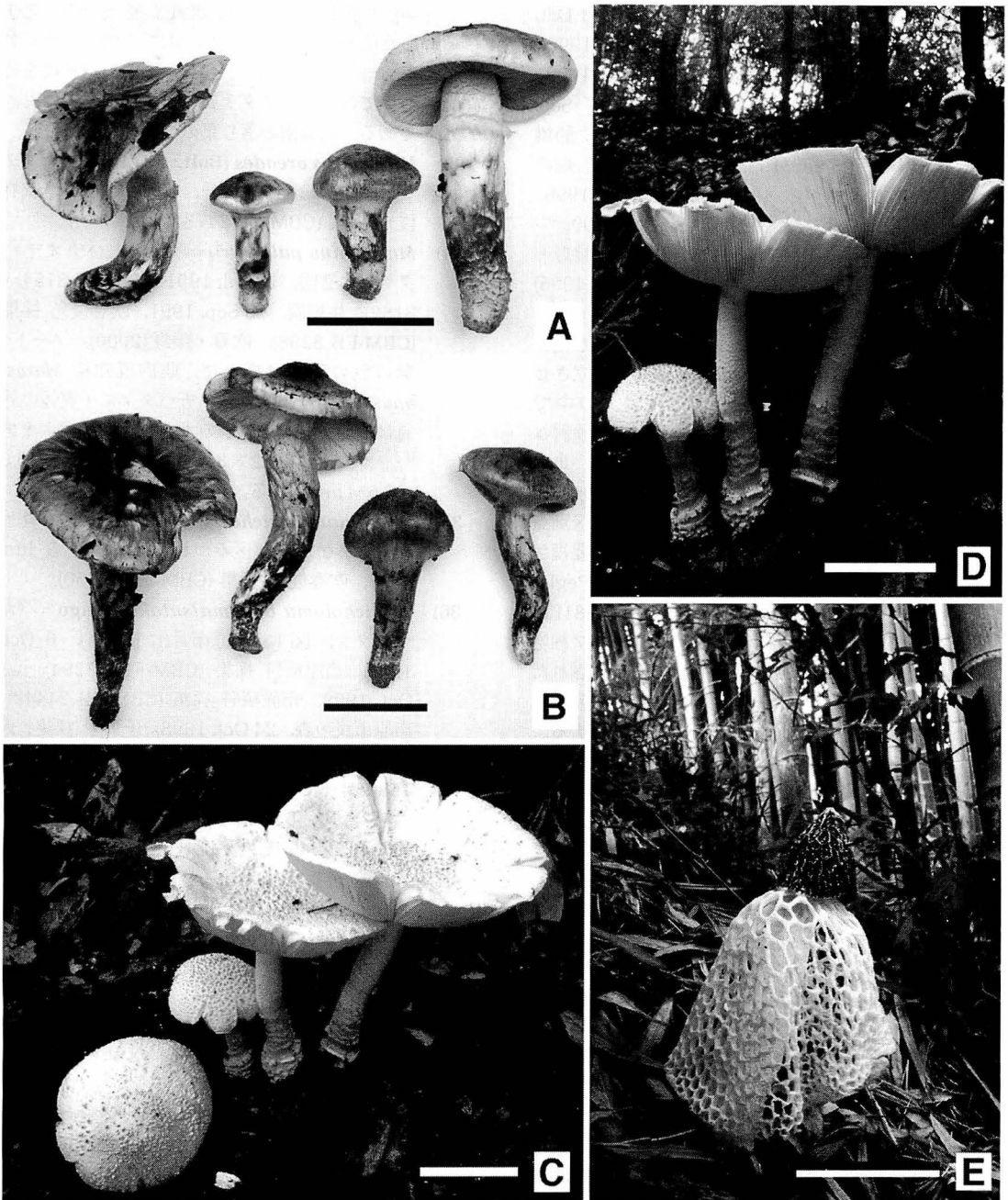


図 1. 千葉県産のきのこ (1). A, バカマツタケ *Tricholoma bakamatsutake* Hongo. 夷隅郡大多喜町, 6 Oct. 2000 (CBM-FB 24935). B, ニセマツタケ *Tricholoma fulvocastaneum* Hongo. 夷隅郡大多喜町, 6 Oct. 2000, バカマツタケに比べ、全体に褐色がつよく、柄の根元が細くなる (CBM-FB 24936). C, D, シロオビテングタケ *Amanita concentrica* T. Oda, C. Tanaka & Tsuda. 清澄山アラカシ沢, 2 Oct. 2000 (CBM-FB 24901, holotype). E, キヌガサタケ *Dictyophora indusiata* (Vent.: Pers.) Fisch. 市原市菊間, 30 Jun. 2000, 西日本の竹林などに高温多湿の梅雨の時期に発生する (CBM-FB 24677). スケール=5 cm.

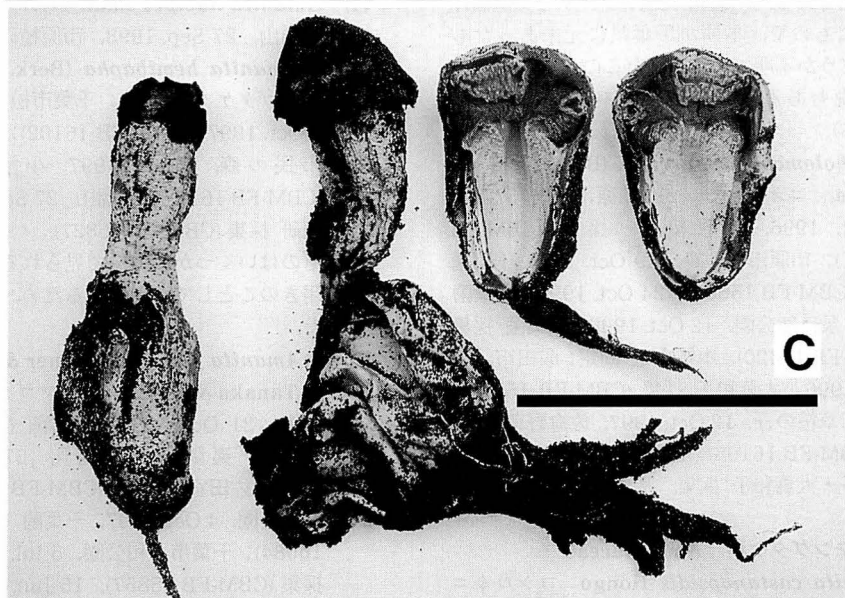
Oct. 1998, 山田和子・大蔭和子 採集 (CBM-FB 24053). ノート: 子実体はハタケシメジなどに似るが、傷つけると肉が黒変し、胞子がや

や三角形 (角形) である点に特徴がある。

30) ★*Macroclype spectabilis* (Peerially & Sutra) Pegler ニオウシメジ: 八千代市, 2 Aug.

- 1996, (CBM-FB 14854); 八千代市, 13 Oct. 1998, 菅井茂穂 採集; 千葉市, 29 Oct. 1996, 稲垣栄一 採集; 稲毛区園生町, 31 Aug. 1999, (CBM-FB 24307); 印旛郡白井町, 17 Sep. 1998, 松丸 裕 採集 (CBM-FB 16816); 船橋市東中山, 25 Sep. 1998, 石井俊治 採集, 畑の脇の雑木林に発生; 東金市山田, 21 Oct. 1996, 三村弘正 採集; 緑区平山町, 20 Oct. 2000, 中村元一 採集 (CBM-FB 30119, 30120). 腰野・吹春 (1997). ノート: 本種は, 吹春ほか (1995) に *Tricholoma giganteum* Massee として引用したが, その後, Pegler *et al.* (1998) は本種およびその近縁種を *Tricholoma* 属から独立させ *Macrocybe* 属を提唱した. その論文の中で Nagasawa and Hongo (1981) によって検討された日本産標本は, 子実体が叢生する点, 傘の表面に青緑の色合いを欠く点で *Macrocybe gigantea* とは別種とした. 本属では種の区別点としてヒダのシスチジア細胞の有無が重要視されているが, *M. gigantea* はこれを欠き (Pegler *et al.*, 1998), Nagasawa and Hongo (1981) によって検討された標本もヒダのシスチジア細胞を欠く. 一方, Cléménçon によって検討された九州産標本はこれを有するとされ (Pegler *et al.*, 1998), また千葉産標本もこれを有する. Pegler *et al.* (1998) は沖縄県読谷村のサトウキビ畑から採集されたニオウシメジとされる標本を *M. spectabilis* と同定し, 結論として「Recognition of a new species awaits detailed examination of the “Nioo-shimeji” fungus」と述べている. 日本産のニオウシメジは数種が混同されている可能性が高く, 千葉産のものも含めて今後の十分な検討が必要である.
- 31) *Macrocystidia cucumis* (Pers.: Fr.) Joss. クリイロムクエタケ: 佐倉城趾公園, 4 Oct. 1997, 千葉菌 採集, 本郷次雄 同定. 吹春・腰野 (2000).
- 32) *Marasmius brunneospermus* Har. Takahashi アミガサハウライタケ: 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 高橋春樹 採集 (CBM-FB 16859, paratype; Takahashi, 1999); 佐倉市吉見住吉神社, 8 Oct. 1998, 阪上津留美 採集 (CBM-FB 16873), 高橋春樹 同定. ノート: 傘の表皮に不規則な網状のシワをあらわし, 基物の間に発達した菌糸マットを形成し, 大型の側シスチジアをもつ. また白色が混合した褐色の胞子紋を持つ点ではハウライタケ属の所属種としては異例である. 広葉樹の落ち葉の堆積上に見られる.
- 33) *Marasmius oreades* (Bolt.: Fr.) Fr. シバフタケ: 県立房総風土記の丘, 10 Sep. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24784).
- 34) *Marasmius pulcherripes* Peck ハナオチバタケ: 生態園, 13 Jul. 1991 (CBM-FB 3154, 3162); 生態園, 18 Sep. 1991, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 3298). 吹春・腰野 (2000). ノート: 傘の色の変異は様々で, 県内既知種 *Marasmius siccus* ハリガネオチバタケに子実体の外見は類似するが, 胞子の大きさがハリガネオチバタケでは $17-22 \times 3-5 \mu\text{m}$, 本種は $11-15.5 \times 3.5-4 \mu\text{m}$ である.
- 35) *Resupinatus trichotis* (Pers.) Sing. クロゲシジミタケ: 若葉区みつわ台 [3440], 5 Jun. 1998, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 16456).
- 36) ★*Tricholoma bakamatsutake* Hongo バカマツタケ, 図 1: 市原市月出 [5754], 6 Oct. 1996, 市原植研 採集 (CBM-FB 15294), 11 Oct. 1999, 市原植研 採集 (CBM-FB 24442); 市原市民の森, 24 Oct. 1998, 千葉菌 採集; 大福山, 27 Sep. 1998, 市原植研 採集 (CBM-FB 16828); 6 Oct. 2000, 大木淳一 採集; 夷隅郡大多喜町, 6 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24935); 清和県民の森, 1 Oct. 2001, 大木淳一 採集. 県レッドリスト B-D (吹春, 1999a). 寺嶋・富谷 (2000), 吹春 (2000b).
- 37) *Tricholoma fulvocastaneum* Hongo ニセマツタケ: 夷隅郡大多喜町, 6 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24936). 吹春 (2000b). ノート: マツタケの類縁種は外生菌根性で, 広葉樹 (ブナ科) と共生するものと針葉樹 (マツ科) と共生するものがある. ブナ科と共生するものには, マツタケ臭のあるバカマツタケとマツタケ臭を全く欠くニセマツタケがある. 2000 年はマツタケの当たり年であったが, 大多喜の同じスダジイ林内にバカマツタケ (CBM-FB 24935) とニセマツタケ (上記標本) が, 同時期, 同じ尾根にそれぞれ菌環をつくり群生していた. 子

図 2. 千葉県産のきのこ (2). A, ザラツキキトマヤタケ *Inocybe dulcamara* (Alb. & Schw.) P. Kumm. 千葉市平和公園, 16 Sep. 1996, 林内のたき火跡に生える焼け跡菌 (CBM-FB 15071). B, ザラツキキトマヤタケ *Inocybe dulcamara*. 千葉市大宮町日枝神社, 10 Oct. 1994, アセタケの仲間て柄と傘表面全体が黄褐色の鱗片を帯びる, 焼け跡に発生したもの (CBM-FB 12300). C, コナガエノアカカゴタケ *Simblum sphaerocephalum* Schltdl. 長生郡一宮町, 6 Dec. 2001. 海岸のコウボウムギより海側のゾーンに冬期発生し, 柄の上部が赤いカゴ状となり, その網目の腕の内側にグレバ (胞子を含んだ粘液) をつける (CBM-FB 30924). スケール=5 cm.



- 実体の大きさはほぼ同じであるが、ニセマツタケは、被膜（つば）の色がより濃い褐色である点、柄の根元がより細い点などで、形態的にも明瞭に区別ができる（図 2）。なお千葉県で *Tricholoma matsutake* マツタケが採集されたという新聞記事（腰野，1996）や情報（香取郡東庄町 Oct. 1959，佐原市高野・大倉で昭和 30 年代；腰野，1997b）はあるが、標本が無く県内産目録に含めていない。
- 38) *Tricholoma myomyces* (Pers.: Fr.) Lange
ハマシメジ：千葉市美浜区美浜 幕張公園 [3333]，29 Oct. 1996，和田篤憲 採集 (CBM-FB 15645)；千葉市美浜区美浜 幕張公園 [3333]，30 Oct. 1996，吹春俊光 採集 (CBM-FB 15646)；稲毛海浜公園，2 Nov. 1996，吉田幸二・吉田悦子・徳田あゆみ 採集 (CBM-FB 17311)，19 Jan. 1998，吹春俊光 採集；8 Apr. 1999，相京康 採集 (CBM-FB 24148)；29 Nov. 2001，腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 30920)；中央区都町，6 Nov. 1996，加藤節子 採集 (CBM-FB 15669)；5 Nov. 2000，加藤節子 採集；千葉市，14 Nov. 2001，小川京子 採集 (CBM-FB 30880)；成田市，26 Nov. 1999，菅原久枝 採集 (CBM-FB 24529)；長生郡一宮町東浪見，27 Nov. 1999，今井節子 採集。相京 (2000)，吹春 (2000a)。ノート：食用とされ *Tricholoma terreum* クマシメジとは幼時傘のコルチナ状内被膜を持つ点で区別される。千葉県の海岸のクロマツは植林されたもので、本種が千葉県に元来あったものかどうか不明である。またこの 2 種を同種とする説もある。県レッドリスト B-D (吹春，1999a)。
- 39) *Tricholoma sulphureum* (Bull.: Fr.) P. Kumm.
ニオイキシメジ：市原市月出 [5754]，6 Oct. 1996，市原植研 採集 (CBM-FB 15291)；市原市民の森，29 Oct. 1996，千葉菌 採集 (CBM-FB 15661)；24 Oct. 1998，千葉菌 採集；泉自然公園，12 Oct. 1996，千葉菌 採集 (CBM-FB 15420)，本郷次雄 同定；成田市，22 Oct. 1996，大蔭和子 採集 (CBM-FB 15539)；佐倉市草笛の丘，12 Oct. 1997，佐倉野草会 採集 (CBM-FB 16198)；鶴舞，31 Oct. 1998，山田和子・大蔭和子 採集。吹春・腰野 (2000)。
- テングタケ科 Amanitaceae
- 40) *Amanita castanopsidis* Hongo
コシロオニタケ：清澄折木沢，30 Jul. 1995，大作晃一・小沼良子 採集 (CBM-FB 10696)，20 Aug. 1995，大作晃一 採集 (CBM-FB 12949)；3 Aug. 1996，大作晃一 採集 (CBM-FB 14855)；17 Aug. 1996，千葉菌 採集 (CBM-FB 14956)；市原市月出 [5754]，11 Oct. 1999，市原植研 採集 (CBM-FB 24441)。ノート：*Amanita virginoides* シロオニタケに似るが，子実体は小型で，幼時には内被膜が綿状，胞子は楕円形である点で区別できる。
- 41) *Amanita citrina* (Schaeff.) Pers. var. *grisea* (Hongo) Hongo
クロコタマゴテングタケ：清和県民の森，3 Oct. 1996，大木淳一 採集 (CBM-FB 15253)；市原市民の森，24 Oct. 1998，千葉菌 採集 (CBM-FB 23012)；市原市月出 [5754]，11 Oct. 1999，市原植研 採集 (CBM-FB 24450)。
- 42) *Amanita concentrica* T. Oda, C. Tanaka & Tsuda
シロオビテングタケ，図 3, 4：清澄アラカシ沢，スダジイ・アカガシ林，2 Oct. 2000，吹春俊光 採集 (CBM-FB 24901, holotype; TNS-F-101526, isotype)。Oda *et al.* (2002) により千葉県産の標本に基づいて新種記載された。ノート：子実体の外見はマツカサモドキ節の *Amanita cokeri* f. *roseotincta* ササクレシロオニタケに似るが，傘に条線がある点でテングタケ節に所属する。ハラタケ目では千葉県が初の正基準標本産地となった種。
- 43) *Amanita excelsa* (Fr.) Bertillon
キリンタケ：市原市民の森，21 Oct. 1995，千葉菌 採集 (CBM-FB 14385)。
- 44) *Amanita flavipes* Imai
コガネテングタケ：大福山，27 Sep. 1998，市原植研 採集。
- 45) ★*Amanita hemibapha* (Berk. & Br.) Sacc.
タマゴタケ（白色型）：千葉市松ヶ丘市民の森，5 Oct. 1997，(CBM-FB 16102)；千葉市松ヶ丘市民の森，6 Oct. 1997，小沼良子 採集 (CBM-FB 16108)；大福山，27 Sep. 1998，市原植研 採集 (CBM-FB 16827)。ノート：白色型のものはいくつかの種類で見られるが，本種は食用きのことして著名であるため，ここに掲載した。
- 46) ★*Amanita javanica* (Corner & Bas) T. Oda, C. Tanaka & Tsuda
キタマゴタケ：市原市民の森，21 Oct. 1995，千葉菌 採集 (CBM-FB 14415)；夷隅郡大多喜町 [5769]，30 Oct. 1995，佐田宜晃 採集 (CBM-FB 14487)；佐倉城趾公園，4 Oct. 1997，千葉菌 採集 (CBM-FB 16084)；千葉市平和公園，5 Jul. 1997，千葉菌 採集 (CBM-FB 15857)，16 Jun. 1998，大蔭和子・磯田京子 採集 (CBM-FB 16506)；船橋県民の森，11 Jul. 1998，千葉菌 採集 (CBM-FB 16639)。吹春・腰野 (2000)，腰野・吹春

- (1997). ノート: *Amanita hemibapha* タマゴタケの亜種とされていたが, DNA の情報から別種としてよい程遺伝的に離れていることが明らかにになり本学名が提唱された (Oda *et al.*, 1998).
- 47) *Amanita imazekii* T. Oda, C. Tanaka & Tsuda ミヤマタマゴタケ: 県立房総風土記の丘, 6 Oct. 1991, 千葉菌 採集 (CBM-FB 3390, paratype; Oda *et al.*, 2001); 9 Oct. 2000, 中央博 採集 (CBM-FB 24950); 県立房総風土記の丘, 8 Oct. 2001, 中央博 採集 (CBM-FB 30770), 21 Oct. 2001, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30812); 市原市月出 [5754], 15 Oct. 2000, 市原植研 採集 (CBM-FB 30060); 清澄折木沢, 18 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30110); 泉自然公園, 14 Oct. 2001, 秋元言吉 採集 (CBM-FB 30791). ノート: ツボ, ツバ, 傘の条線を有するツルタケ節のタマゴタケの仲間で, 大型の子実体を有するにもかかわらず長い間学名が確定しなかった種で, 従来各地でミヤマテングタケ, ミヤマドクツルタケなどといった仮称でよばれてきた. 深い膜質のツボを有し, 柄とツボの付近に, 外見からは見えない, もうひとつのツボ (二重のツボ) をもつ点に特徴がある.
- 48) *Amanita kotohiraensis* Nagasawa & Mitani コトヒラシロテングタケ: 船橋県民の森, 14 Oct. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30027), 小田貴志 同定. ノート: 子実体の柄の基部がカブラ状に膨らみ, その上部に外被膜が環状に残る点, 傘の表面に脱落しやすい外被膜の名残を付着させる点, 子実体に塩素臭がある点が特徴である (Nagasawa and Mitani, 2000).
- 49) *Amanita perpastata* Corner & Bas オニテングタケ: 千葉市小食土町昭和の森 [4082], 29 Oct. 1995, 佐田宜晃 採集 (CBM-FB 14484); 千葉市, 31 Oct. 1998, 山田和子・大蔭和子 採集 (CBM-FB 24051); 県立房総風土記の丘, 9 Oct. 2000, 中央博 採集 (CBM-FB 24955).
- 50) ★*Amanita sculpta* Corner & Bas チャオニテングタケ: 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 千葉菌 採集; 夷隅郡大多喜町伊藤, 11 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24985); 夷隅郡大多喜町筒森, 11 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24984). 県レッドリスト A (吹春, 1999 a). 吹春 (2000 b). ノート: 吹春ほか (1995) でもとりあげたが東南アジア要素 (本郷, 1978) として千葉県の菌類相を考える上で重要な菌であるので, 新産地を加えた.
- 51) *Amanita sinensis* Z. L. Yang ハイカグラテングタケ: 清和県民の森, 25 Jul. 1996, 尾崎雄 採集 (CBM-FB 14796); 清澄折木沢, 3 Aug. 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 14861); 市原市民の森, 11 Oct. 1998, 吹春俊光 採集; 泉自然公園, 30 Sep. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24866); 県立房総風土記の丘, 9 Oct. 2000, 中央博 採集. ノート: 本種は最初, 落葉ナラ *Quercus* 林やマツ *Pinus* 林に発生する未知種として日本のきのこ図鑑 (今関ほか, 1988) に掲載された種で, Yang (1997) によって中国から新種記載された *A. sinensis* と同一種であること, さらにネパールのマツ植栽林からも発生すること等が Oda *et al.* (2000) 明らかにされた. 子実体は非常に大型で, 子実体全体が特徴的な灰色の粉状の付属物に被われるのが特徴である. 本郷による「東南アジア要素」は熱帯高地のブナ科樹林から日本にかけて発生する点がその特徴であるが, 本種は熱帯高地のブナ科林からの発生がまだ知られておらず, またマツ属の林に発生するという点が前述の要素と異なる. アジアのきのこ相と分布を論じる点で非常に重要な菌であると考えられる. 安藤正信氏によれば食用であるという.
- 52) *Limacella subglischra* (Imai) S. Ito ヌメリカラカサタケ: 神崎町, 神崎神社 [1333], 7 Sep. 2001, 吹春俊光・腰野文男 採集 (CBM-FB 30669).

ウラベニガサ科 Pluteaceae

- 53) *Volvariella hypopithys* (Fr.) Moser モリノコフクロタケ: 市原市民の森, 21 Oct. 1995, 千葉菌 採集 (CBM-FB 14383); 市原市民の森, 21 Oct. 1995, 千葉菌 採集 (CBM-FB 14402).
- 54) *Volvariella subtailori* Hongo コフクロタケ: 佐倉城趾公園, 3 Sep. 2001, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30645). ノート: 植栽された梅林の下にしきつめられた樹皮堆肥上に発生していた.

ハラタケ科 Agaricaceae

- 55) *Agaricus campestris* L.: Fr. ハラタケ: 若葉区みつわ台 [3440], 3 Apr. 1997, 磯田京子 採集 (CBM-FB 15719); 6 Apr. 1997, 磯田京子 採集 (CBM-FB 15721); 若葉区みつわ台 [3440], 15 Apr. 1997, 磯田京子 採集 (CBM-FB 15734).
- 56) *Chlorophyllum molybdites* (G. Meyer: Fr.) Massee オオシロカラカサタケ: 青葉の森公園, 1 Oct. 2000, 菅原俊夫 採集 (CBM-FB 24871); 1 Sep. 2001, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30638); 3 Sep. 2001, 吹春俊光 採集 (CBM-

- FB 30648). 吹春 (2000b, 2001). ノート: 本種は元来熱帯性のきのこで, かつては日本の一部の地域にしか知られていなかった. しかし, 過去 40 年間の関西のきのこの発生情報を調べたところ, 1980 年に大阪の 1 か所で本種の発生が確認され, 大阪湾岸を中心に毎年その発生域が北上し始めたことから, 地球温暖化現象を示すきのこではないかと考えられている (横山, 1995). 千葉県では, 1991 年 10 月に館山で最初に確認 (根田 仁私信) されている. 大きな子実体をつくること, 群生すること, ヒダが緑色を帯びる (胞子が緑色を帯びる) こと, などに本種の特徴があり, 嘔吐, 下痢, 発熱症状を引き起こす毒きのこである. 日本での分布の北限は現在, 日本海側は金沢付近, 太平洋側は群馬付近 (横山和正私信) である.
- 57) *Cystoagaricus strobilomyces* (Murrill) Sing. クロヒメオニタケ: 佐倉市土浮 [1896], 20 Aug. 1996, シイタケほだ木から, 近田節子 採集 (CBM-FB 14978); 中央区辺田町 [3934], 29 Sep. 1997, 磯田京子 採集 (CBM-FB 16005), 佐倉市草笛の丘, 12 Oct. 1997, 佐倉野草会 採集 (CBM-FB 16192); 佐倉市飯野町, 8 Oct. 1999, 腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 24414). 吹春・腰野 (2000). ノート: すべてシイタケの古いホダ木から発生していた. 小型の子実体をつくる目立たない種で, 環太平洋に分布し, 日本からはこれまで京都市・鳥取市のみから知られていたが, おそらく日本各地に見られる菌であろう.
- 58) *Lepiota cinnamomea* Hongo チャキツネノカラカサ: 生態園, 3 Oct. 1999, 大沢 淳 採集 (CBM-FB 24395).
- 59) *Lepiota xanthophylla* P. D. Orton キヒダカラカサモドキ: 泉自然公園, 4 Oct. 1996, 腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 15263).
- 60) *Macrolepiota rhacodes* (Vitt.) Sing. カラカサタケモドキ: 泉自然公園, 2 Oct. 1999, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24392).
- 61) *Squamanita odorata* (Cool) Bas ニオイオオタマシメジ: 夷隅郡大多喜町, 29 Oct. 2000, 佐野悦三 採集. ノート: テングタケ属に寄生する *Squamanita umbonata* カブラマツタケ同様他種のきのこに寄生するきのこで, 本種の場合 *Phaeolepiota aurea* コガネタケの菌糸塊に寄生する. 標本は残されていないが, その特徴的な子実体をもつことから, 誤同定の可能性は低く, 本目録に加えた. 本種が寄生した菌糸塊は子実体が発生する前からファンタグレーブ・ジュース様の独特の香りがある.
- ヒトヨタケ科 *Coprinaceae*
- 62) *Anellaria antillarum* (Berk.) Sing. ツヤマゲソタケ: 松戸市新松戸, 9 May 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 14886).
- 63) *Coprinus echinosporus* Buller ザラミノヒトヨタケモドキ: 清澄山仁の沢 [6391], 12 Dec. 1989, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 2719). ノート: 尿素を施与した森林土壌表面から発生するアンモニア菌.
- 64) *Coprinus gonophyllus* Quél. ヤケノヒメヒトヨタケ: 千葉市平和公園, 31 May 1995, 大作晃一 採集 (CBM-FB 12642). ノート: 焼け跡に発生する「焼け跡菌」で, 胞子の表面観は法冠状, 側面観は楕円形, という顕微鏡的な特徴をもつ.
- 65) *Coprinus insignis* Peck ミヤマザラミノヒトヨタケ: 館山市神余 [7580], 17 Jun. 1995, 大作晃一・佐野悦三・堀米礼子 採集 (CBM-FB 10536); 清澄折木沢, 2 Jul. 1995, 大作晃一 採集 (CBM-FB 10630); 14 Sep. 1998, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 16803); 2 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24898); 夷隅郡大多喜町小田代 [6312], 15 Oct. 1997, 夷隅支庁 採集 (CBM-FB 16218); 佐倉市民の森, 14 Oct. 1996, 佐倉野草会 採集 (CBM-FB 15455); 市原市民の森, 21 Oct. 1995, 千葉菌 採集 (CBM-FB 14421); 23 Oct. 1999, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24496); 泉自然公園, 12 Oct. 1996, 千葉菌 採集 (CBM-FB 15443); 5 Jul. 1997, 千葉菌 採集 (CBM-FB 15866); 船橋県民の森, 13 Jul. 1996, 千葉菌 採集 (CBM-FB 14786); 14 Oct. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30036); 市原市月出 [5754], 11 Oct. 1999, 市原植研 採集 (CBM-FB 24447), 15 Oct. 2000, 市原植研 採集 (CBM-FB 30051, 30053). 吹春・腰野 (2000). ノート: 和名は青木 実による. 胞子の表面が粗面で, ザラミノヒトヨタケ *Coprinus echinosporus* に似るが, 胞子表面に胞子盤を欠く点で異なる. 人里には少なく, 子実体は中型で, 森林内に単生することが多い. 子実体表面には末端が細くなり, 分岐しない細胞からなる外被膜を有する.
- 66) *Coprinus neolagopus* (Desm.: Fr.) Hongo & Sagara コツプザラエノヒトヨタケ: 長生郡長南町笠森寺 [5026], 16 Nov. 1994, 堀米礼子 採集 (CBM-FB 10362); 長生郡長柄町権現森 [4466], 16 Nov. 1994, 堀米礼子 採集 (CBM-FB 10368); 千葉市若葉区大宮町日枝神社 [3493], 14 Jun. 1995, 吹春俊光・堀米礼子 採集 (CBM-FB 10515, 10558, 10561, 10563, 10564); 館山市神余 [7580], 1 Jul. 1995, 大作

- 晃一・堀米礼子 採集 (CBM-FB 10602, 10606); 15 Jul. 1995, 堀米礼子 採集 (CBM-FB 10652, 10653, 10654, 10748); 清澄アラカシ沢, 2 Jul. 1995, 鈴木彰 採集 (CBM-FB 10633); 清和県民の森, 15 Jul. 1995, 堀米礼子 採集 (CBM-FB 10656). ノート: 土壌に尿素を加え培養した土壌から採集されたアンモニア菌として, 上記は記録された. 野外の自然条件下でも同様な環境に発生する.
- 67) *Panaeolus papilionaceus* (Bull.: Fr.) Quél. フライタケ: 印旛郡白井町 [1727], 4 May 1997, 大作晃一 採集 (CBM-FB 15746); 佐倉城趾公園, 3 Sep. 2001, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30644).
- 68) *Psathyrella bipellis* (Quél.) A. H. Smith ウスベニイタチタケ: 千葉市平和公園, 焼け跡, 16 Apr. 1995, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 12503); 若葉区貝塚町 [3451], 3 May 1995, 大作晃一 採集 (CBM-FB 12562); 生態園, 4 May 1995, 小沼良子 採集 (CBM-FB 12573); 松戸市松戸千葉大学園芸学部構内 [1672], 13 May 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 14888); 青葉の森公園, 29 May 1996, 小沼良子 採集 (CBM-FB 14648). ノート: 古い焼け跡から採集されたものもあり (CBM-FB 12503), これまで正式な報告はないが, 本種は焼け跡菌としての生態ももつと考えられる.
- 69) *Psathyrella cineraria* Har. Takahashi ハイイロイタチタケ: 船橋県民の森, 20 May 1995, 大作晃一 採集 (CBM-FB 12632); 佐倉市民の森, 24 Sep. 1999, 腰野文男・吹春俊光 採集 (CBM-FB 24326); 泉自然公園, 30 Sep. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24858). ノート: 神奈川産標本 (CBM-FB 24144, holotype) をもとに, Takahashi (2000) によって記載された. 傘並びに柄の表面が暗灰色の消失性被膜に被われ, ツバを欠く. シラカシの材から発生するという.
- オキナタケ科 *Bolbitiaceae*
- 70) *Agrocybe praecox* (Pers.: Fr.) Fayod フミツキタケ: 青葉の森公園, 28 May 1996, 小沼良子 採集 (CBM-FB 14647); 清和県民の森, 9 May 1998, 高橋光廣 採集 (CBM-FB 16387).
- 71) *Agrocybe semiorbicularis* (Bull.) Fayod ハタケキノコ: 青葉の森公園, 21 Apr. 1996, 小沼良子 採集 (CBM-FB 14593).
- 72) *Bolbitius demangei* (Quél.) Sacc. & D. Sacc. トキイロオキナタケ: 青葉の森公園, 31 Jul. 1997, 小沼良子 採集 (CBM-FB 15907).
- 73) *Bolbitius reticulatus* (Pers.: Fr.) Ricken クロシワオキナタケ: 船橋県民の森, 6 May 1995, 大作晃一 採集 (CBM-FB 12587).
- 74) *Conocybe fragilis* (Peck) Sing. ハタケコガサタケ: 千葉市中央区, 7 Jul. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24702). 吹春 (2000b). ノート: JR 千葉駅前道路の中央分離帯の樹皮堆肥に *Conocybe lactea* キコガサタケとともに発生した.
- 75) *Conocybe nodulospora* (Hongo) Watling コブミノコガサタケ: 市原市民の森, 13 Jun. 1998, 大作晃一・小沼良子 採集 (CBM-FB 16471), 5 Jul. 1998, 大作晃一 採集 (CBM-FB 16598).
- モエギタケ科 *Strophariaceae*
- 76) *Kuehneromyces mutabilis* (Schaeff.: Fr.) Sing. & A. H. Smith センボンイチメガサ: 若葉区大宮台, 24 Oct. 1998, 荒武春男 採集 (CBM-FB 16998); 清和県民の森, 27 Oct. 2000, 大木淳一 採集 (CBM-FB 30178).
- 77) *Hypholoma sublateritium* (Fr.) Quél. クリタケ: 清澄アラカシ沢, 25 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30166).
- フウセンタケ科 *Cortinariaceae*
- 78) *Cortinarius praestans* (Cord.) Sacc. ムレオオフウセンタケ: 市原市瀬又, 30 Oct. 1998, 今井節子 採集 (CBM-FB 24045).
- 79) *Cortinarius prunicola* Miyauchi & His. Kobayashi ウメウスフジフウセンタケ: 柏市名戸ヶ谷, 17 May 2000, 高橋光廣 採集 (CBM-FB 24627); 佐倉市大佐倉, 22 May 2000, 高橋勝雄 採集 (CBM-FB 24637). ノート: *Entoloma saepium* ハルシメジ (シメジモドキ) の発生した菌環跡に, 同時期に発生し, 本種が発生したあとは, ハルシメジが発生しなくなる.
- 80) *Cortinarius variegatus* (Per.: Fr.) Fr. フジイロタケモドキ: 泉自然公園, 12 Oct. 1996, 千葉菌 採集, 本郷次雄 同定; 佐倉城趾公園, 4 Oct. 1997, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16087). 吹春・腰野 (2000).
- 81) *Galerina tibicystis* (Atk.) Kühner. ミズゴケタケ: 佐倉市畦田, 22 Apr. 1998, 山越沙織 採集 (CBM-FB 16362).
- 82) *Gymnopilus spectabilis* (Fr.) Sing. オオフライタケ: 市原市石塚 [5780], 6 Oct. 1997, 腰野文男 採集 (CBM-FB 16119); 夷隅郡大多喜町筒森, 4 Oct. 2001, 夷隅支庁 採集 (CBM-FB

- 30756). ノート: ブナ林に多く見られる種であるが, 照葉樹林内のスダジイ樹幹などにも稀に発生する。
- 83) *Inocybe calamistrata* (Fr.: Fr.) Gill. アオアシアセタケ: 県立房総風土記の丘, 9 Jul. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24710), 小林孝人 同定。
- 84) *Inocybe cincinnata* (Fr.: Fr.) Quél. クロトマヤタケモドキ: 県立房総風土記の丘, 21 Oct. 2001, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30804), 小林孝人 同定。
- 85) *Inocybe dulcamara* (Alb. & Schw.) P. Kumm. ザラツキキトマヤタケ, 図 6, 7: 生態園, 3 May 1995, 小沼良子 採集 (CBM-FB 12569); 12 May 1995, 小沼良子 採集 (CBM-FB 12603); 18 Sep. 1996, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 15096); 16 May 1997, 小沼良子 採集 (CBM-FB 15767); 千葉市若葉区大宮町日枝神社 [3493], 9 Jun. 1995, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 12691); 15 Jun. 1995, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 12694); 長生郡一宮町 [5901], 3 Jul. 1995, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 12811); 千葉市平和公園, 16 Sep. 1996, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 15071); 千葉市平和公園, 2 Oct. 1997, 大鷲和子・磯田京子 採集 (CBM-FB 16020); 君津市久留里城趾 [5657], 27 Sep. 1997, 市原植研 採集 (CBM-FB 15968); 佐倉市草笛の丘, 12 Oct. 1997, 佐倉野草会 採集 (CBM-FB 16206); 船橋県民の森, 11 Jul. 1998, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16657); 泉自然公園, 30 Sep. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24861). ノート: 焼け跡 (CBM-FB 12691, 12694) や樹木を植栽した攪乱地 (CBM-FB 12569, 12603, 15096, 15767) に生える外生菌根菌。吹春・腰野 (2000)。
- 86) *Inocybe glabrodisca* P. D. Orton ミナカタトマヤタケ: 県立房総風土記の丘, 9 Jul. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24711), 小林孝人 同定; 県立房総風土記の丘, 21 Oct. 2001, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30801), 小林孝人 同定。
- 87) *Inocybe leptoclada* Takahito Kobay. & Courtec. モモエノトマヤタケ: 山武郡蓮沼村, 27 June 1999, 小林孝人・大作晃一 採集 (TAKK 99.6.27.8). ノート: 神奈川県本厚木産標本 (CBM-FB 5235) をもとに Kobayashi and Courtecuisse (2000) によって記載された。
- 88) *Inocybe paludinella* (Peck) Sacc. キヌハダニセトマヤタケ: 船橋県民の森, 14 Oct. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 30039), 小林孝人 同定。
- 89) *Inocybe petchii* Boedijn ミヤマハリアセタケ: 生態園, 9 Jul. 1993, 小沼良子 採集 (CBM-FB 5650), 小林孝人 同定 (Kobayashi, 2002)。
- 90) *Inocybe senkawensis* Kobayasi ヒメアセタケ: 県立房総風土記の丘, 9 Jul. 2000, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24708), 小林孝人 同定。
- 91) *Inocybe umbrina* Bres. アセタケモドキ: 船橋県民の森, 11 Jul. 1999, 千葉菌 採集, 小林孝人 同定。
- イッポンシメジ科 Entolomataceae
- 92) *Rhodocybe mundula* (Lasch) Sing. ムツノウラベニタケ: 大福山, 27 Sep. 1997, 今井節子 採集 (CBM-FB 15956). ノート: 子実体の肉の味は苦く, 胞子角形でイボを持つ。
- 93) *Entoloma japonicum* Hongo ケモミウラモドキ Syn. *Rhodophyllus japonicus* (Hongo) Hongo: 青葉の森公園, 7 Jun. 1995, 小沼良子 採集 (CBM-FB 12659); 11 Jun. 1995, 小沼良子 採集 (CBM-FB 10513); 21 Jun. 1995, 小沼良子 採集 (CBM-FB 12729). ノート: 子実体は小型, 外見はアセタケ属のものに類似し, 傘表面にはささくれ状〜綿毛状の褐色の鱗片に被われる。
- 94) *Entoloma kujuense* (Hongo) Hongo ナスコンイッポンシメジ Syn. *Rhodophyllus kujuensis* Hongo: 君津市黄和田畑札郷洞沢 [6361], 6 Oct. 1996, 井口 潔 採集 (CBM-FB 15319), 井口 潔 同定; 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16854), 本郷次雄 同定。
- 95) *Entoloma omiense* (Hongo) Horak ウスキモミウラモドキ Syn. *Rhodophyllus omiensis* Hongo: 佐倉市民の森, 28 Sep. 1999, 近田節子 採集 (CBM-FB 24347)。
- 96) *Entoloma pulchellum* (Hongo) Hongo シバフウラベニタケ Syn. *Rhodophyllus pulchellus* Hongo: 青葉の森公園, 29 Aug. 1999, 小沼良子 採集 (CBM-FB 24304)。
- 97) *Entoloma conferendum* (Britz.) Noordel. ミイノモミウラモドキ Syn. *Rhodophyllus staurosporum*: 泉自然公園, 12 Oct. 1996, 千葉菌 採集, 本郷次雄 同定。
- イグチ科 Boletaceae
- 98) *Aureoboletus thibetanus* (Pat.) Hongo & Nagasawa ヌメリコウジタケ: 県立房総風土記の丘, 10 Oct. 1998, 中央博 採集 (CBM-FB 16908)。

- 99) *Boletus aokii* Hongo ヒメコウジタケ: 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16857), 本郷次雄 同定; 30 Sep. 2000, 千葉菌 採集.
 - 100) *Boletus granulopunctatus* Hongo ツブエノウラベニイグチ: 県立房総風土記の丘, 10 Oct. 1996, 中央博 採集 (CBM-FB 15381); 10 Oct. 1997, 中央博 採集 (CBM-FB 16153); 市原市月出 [5754], 11 Oct. 1999, 市原植研 採集 (CBM-FB 24452).
 - 101) *Boletus obscureumbrinus* Hongo オオコゲチャイグチ: 清澄折木沢, 3 Aug. 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 14868); 千葉市, 7 Sep. 2001, 慶田真貴子 採集 (CBM-FB 30679).
 - 102) *Boletus quercinus* Hongo ナガエノウラベニイグチ: 船橋県民の森, 11 Jul. 1999, 千葉菌 採集 (CBM-FB 22117); 11 Jul. 1999, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24193).
 - 103) *Boletus umbriniporus* Hongo コゲチャイロガワリ: 清澄折木沢, 14 Sep. 1998, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 16796).
 - 104) *Gyroporus logicystidiatus* Nagasawa & Hongo クリイロイグチモドキ: 清澄折木沢, 3 Aug. 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 14869).
 - 105) *Phylloporus bellus* (Masse) Corner イロガワリキヒダタケ: 君津市貞元, 29 Jun. 2000, 川名 興 採集 (CBM-FB 24676).
 - 106) *Suillus laricinus* (Berk. in Hook.) O. Kuntze シロヌメリイグチ: 泉自然公園, 12 Oct. 1996, 千葉菌 採集 (CBM-FB 15439), 高橋春樹 同定. ノート: 本種はカラマツと外生菌根をつくる種で, 元来房総半島には分布しないものであるが, カラマツの植栽とともに千葉県に発生するようになったものと考えられる移入種.
 - 107) *Tylopilus alboater* (Peck) Sing. オオクロニガイグチ: 清澄折木沢, 22 Jul. 1995, 大作晃一 採集 (CBM-FB 10681); 30 Jul. 1995, 大作晃一・小沼良子 採集 (CBM-FB 10697); 7 Oct. 1995, 大作晃一・佐野悦三 採集 (CBM-FB 14138); 3 Aug. 1996, 大作晃一 採集 (CBM-FB 14875); 17 Aug. 1996, 千葉菌 採集 (CBM-FB 14958); 14 Sep. 1998, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 16804); 2 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24897); 清和県民の森, 28 Sep. 1997, 小沼良子 採集 (CBM-FB 15943); 佐倉市飯重大宮神社, 14 Sep. 1998, 阪上津留美 採集 (CBM-FB 16804). 吹春・腰野 (2000). ノート: 多くの標本は東京大学千葉演習林内などのようなモミを交える林で採集されている. 今関・本郷 (1988) は, 本種をマツ・ナラの混生林内に発生する種としているが, 千葉県の発生例をみると, 本種とモミは外生菌根共生等の密接な関連があると考えられる. また佐倉市の鹿島川がつくる谷津の兩岸の台地の縁には, 大宮神社のようにモミが残存する神社が見られ, モミの自然分布と考えられるが, 本種がこのような地でも採集されたことは興味深い.
 - 108) *Tylopilus castaneiceps* Hongo ヌメリニガイグチ: 市原市民の森, 21 Oct. 1995, 千葉菌 採集 (CBM-FB 14427); 夷隅郡夷隅町 [5871], 28 Oct. 1995, 相京 康 採集 (CBM-FB 14456); 市原市月出 [5754], 11 Oct. 1999, 市原植研 採集 (CBM-FB 24443).
 - 109) *Tylopilus eximius* (Peck) Sing. var. *nanus* Hongo コウラグロニガイグチ: 清澄折木沢, 22 Jul. 1995, 大作晃一 採集 (CBM-FB 10679).
 - 110) *Tylopilus rigens* Hongo オクヤマニガイグチ: 清澄折木沢, 16 Jul. 1995, 吉田幸二・大作晃一・徳田あゆみ 採集 (CBM-FB 12942, 12943); 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 千葉菌 採集, 本郷次雄 同定.
- オニイグチ科 Strobilomycetaceae
- 111) *Austroboletus fusisporus* (Kawam. ex Imaz. & Hongo) Wolfe ヤシイグチ: 泉自然公園, 2 Oct. 1999, 千葉菌 採集 (CBM-FB 24371).
 - 112) *Boletellus chrysenteroides* (Snell) Snell アヤマイグチ: 大福山, 28 Aug. 1994, 佐野悦三・大作晃一 採集 (CBM-FB 11348, 11349); 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 千葉菌 採集 (CBM-FB 16843), 本郷次雄 同定.
- ペニタケ科 Russulaceae
- 113) *Lactarius tottoriensis* Matsuura キハツダケ Syn. *Lactarius flavidulus* Imai: 夷隅郡大多喜町会所 [6386], 22 Oct. 1995, 相京 康・高橋重雄 採集 (CBM-FB 14434); 清澄折木沢, 6 Oct. 1996, 井口 潔・大作晃一 採集 (CBM-FB 17212), 井口 潔 同定; 18 Oct. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30106). ノート: モミ・ツガ林に発生する外生菌根菌でモミとの共生菌. 白色の乳液を分泌し, 乳液はゆっくり青変するので子実体を傷つけるとのち青変する. 肉の味は辛くない. 学名は Nagasawa (1998) に従った.
 - 114) *Lactarius quietus* Fr. チョウジチタケ: 泉自然公園, 3 Oct. 1998, 千葉菌 採集, 本郷次雄 同定.

- 115) *Lactarius zonarius* (Bull.) Fr. キカラハツモドキ: 清和県民の森, 3 Oct. 1996, 大木淳一 採集 (CBM-FB 15250). ノート: 子実体の味は辛く, 乳液の色は変色しない.

腹菌亜綱 GASTEROMYCETIDAE

ニセシウロ目 SCLERODERMATALES

ニセシウロ科 Sclerodermataceae

- 116) *Scleroderma dictyosporum* Pat. アミメニセシウロ: 生態園, 14 Jun. 1998, 小沼良子 採集 (CBM-FB 16479); 14 Jun. 1998, 小沼良子 採集 (CBM-FB 16482). ノート: ニセシウロ属は日本産のものは10種程度知られており, うち胞子表面に網目状の模様をもつものは他に *S. bovista* ハマニセシウロ, *S. citrinum* ニセシウロ が知られている. 本種は殻皮がより薄く, 網目状隆起がより高い点で他2種と区別される (吉見, 2002). 和名は吉見昭一の提唱.

ホコリタケ目 LYCOPERDALES

ホコリタケ科 Lycoperdaceae

- 117) *Vascellum pratense* Kreisel ヒメホコリタケ: 千葉市緑区大膳野町千葉県農業試験場, 29 Jun. 1998, 寺嶋芳江 採集 (CBM-FB 16551), 吉見昭一 同定. ノート: 本属は無性基部と基本体の間に明瞭な隔壁をもつ. 千葉県の農業試験場でゴルフ場の芝の病害菌として研究されており, 芝が菌環にそって枯れてしまう現象が知られている.

スポンタケ目 PHALLALES

アカカゴタケ科 Clathraceae

- 118) *Clathrus ruber* (Micheli) Pers. f. *kusanoi* Kobayasi アンドンタケ: 清澄山, 28 Jul. 1928, 草野俊助 採集, 小林義雄 同定 (小林, 1938); 安房郡和田町花嫁街道 (長者川ぞい), 14 Oct. 1998, 今井節子 観察. 県レッドリスト B-D (吹春, 1999a). 吹春 (1999b). ノート: 本種はアカカゴタケ *Clathrus ruber* の品種で, 小林義雄により命名され, 前者が「籠目ノ数ハ10箇以上」, 後者は「10箇足ラズ」 (小林, 1938) という点で区別されている. アンドンタケは, 原記載は草野俊助東大教授採集の上記標本によるものであり, 清澄山が基準標本産地 (小林, 1938) である.
- 119) *Lysurus mokusin* (L.: Pers.) Fr. f. *mokusin* ツマミタケ: 松戸市松戸千葉大学園芸学部構内 [1672], 14 Jun. 1997, 長尾英幸 採集 (CBM-FB 15801); 市原市菊間, 7 Jun. 2001, 大作晃

一 採集 (CBM-FB 30311); 中央区亥鼻, 25 Jun. 2001, 小沼良子 採集 (CBM-FB 30456).

- 120) *Simblum sphaerocephalum* Schltdl. コナガエノアカカゴタケ Syn. *Lysurus periphragmoides* (Klotzsch) Dring, 図7: 長生郡一宮町, 6 Dec. 2001, 浅井郁夫・浅井淑子 採集 (CBM-FB 30924), 吉見昭一 同定. ノート: 本標本は, 海岸のマツ植栽帯の海側の外, コウボウムギなどのゾーンより海側で採集された. また採集者によれば冬に発生するという. 国内の発生はほとんど知られていない珍菌. Dring (1980) によれば, 旧世界 (Old World) 産のものは頭部は黄色を帯び (yellow), 新世界 (New World) 産のものは赤色を帯びる (reddish) という. 本種は幼菌の時点では頭部はオレンジ色を帯びていた.

- 121) ★*Dictyophora indusiata* (Vent.: Pers.) Fisch. キヌガサタケ, 図5: 佐原市山之辺, 30 Aug. 1953 (腰野, 1997a); 市原市菊間, 30 Jun. 2000, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 24677); 7 Jun. 2001, 大作晃一 採集 (CBM-FB 30310); 10 Jun. 2001, 吹春俊光 採集 (CBM-FB 30312); 12 Jun. 2001, 林 和美 採集 (CBM-FB 30315). 林 (1999). 県レッドリスト B-D (吹春, 1999a). ノート: 吹春ほか (1995) では新聞記事をもとに千葉産としたが, その後市原市の民家裏の竹林に産することが判明した. 毎年の発生が確認されている.

謝 辞

本報告を行うにあたり, 小田貴志, 小林孝人, 本郷次雄, 井口 潔, 高橋春樹, 吉見昭一の各氏に標本同定の御協力を頂いた. また, 県内産菌類資料の収集にあたっては, 相京 康, 秋元言吉, 浅井郁夫, 浅井淑子, 荒武春男, 石井俊治, 伊豆明雄, 磯田京子, 稲垣栄一, 今井節子, 大木淳一, 大沢 淳, 小川京子, 尾崎煙雄, 大鷲和子, 大鷲 満, 加藤節子, 川名 興, 慶田真貴子, 坂上津留美, 佐田宜晃, 佐野悦三, 菅井茂穂, 菅原俊夫, 菅原久枝, 鈴木 彰, 高橋勝雄, 高橋光廣, 寺嶋芳江, 徳田あゆみ, 近田 隆, 近田節子, 中川廣子, 中村元一, 林 和美, 福士玲子, 堀米礼子, 松丸 裕, 松本妙子, 三村弘正, 山越沙織, 山田和子, 吉田幸二, 吉田悦子, 和田篤憲の各氏に, また市原植物研究会, 佐倉野草会, 千葉菌類談話会の方々にご協力頂いた. 感謝申し上げます.

本研究は千葉県立中央博物館総合研究事業「房総の菌類誌」の一環としておこなった.

引用文献

相京 康. 2000. 私の年間歳時記. 千葉菌類談話通信

- (16・17): 8-1.
 千葉県立中央博物館 (編). 1990. 千葉県メッシュマップ. 77 maps. 千葉県立中央博物館, 千葉.
- Corner, E. J. H. 1987. Ad Polyporaceas IV the genera *Daedalea*, *Flabellophora*, *Flavodon*, *Gloeophyllum*, *Heteroporus*, *Irpex*, *Lenzites*, *Microporellus*, *Nigrofores*, *Nigroporus*, *Oxyporus*, *Paratrachaptum*, *Rigidoporus*, *Scenidium*, *Trichaptum*, *Vanderbylia*, and *Steccherinum*. Beih. Nova Hedwigia 86: 1-265.
- Corner, E. J. H. 1994. Agaricus in Malesia I Tricholomatoid, II Mycenoid. Beih. Nova Hedwigia 109: 1-271.
- Dring, D. M. 1980. Contributions towards a rational arrangement of the Clathraceae. Kew Bull. 35: 1-96.
- 吹春俊光. 1996. 第3節きのこ. In 千葉県の自然誌本編 1 千葉県の自然, pp. 251-257. 千葉県史料研究財団, 千葉.
- 吹春俊光. 1998a. 第2章第1節 森林・海岸, 第2節草原・耕地. In 千葉県の自然誌本編 4 千葉県の自然, pp. 58-71. 千葉県史料研究財団, 千葉.
- 吹春俊光. 1998b. 第3章第6節 担子菌門. In 千葉県の自然誌本編 4 千葉県の自然, pp. 146-185. 千葉県史料研究財団, 千葉.
- 吹春俊光. 1999a. 菌類. In 千葉県環境部自然保護課 (編), 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物編. pp. 333-345. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
- 吹春俊光. 1999b. キヌガサタケとアンドンタケ. 千葉菌類談話通信 (15): 18.
- 吹春俊光. 2000a. 金茸と銀茸. 千葉菌類談話通信 (16・17): 3-4.
- 吹春俊光. 2000b. 千葉キノコ事情. 千葉菌類談話通信 (18): 4-6.
- 吹春俊光. 2000c. 房総風土記の丘のきのこ今昔. 印波 47: 5.
- 吹春俊光. 2001. 地球温暖化ときのこ. 千葉県立中央博物館友の会ニュース (44): 1.
- 吹春俊光・腰野文男. 2000. 佐倉市的大型菌類相. In 佐倉市自然環境調査団 (編), 佐倉市自然環境調査報告書, pp. 121-128. 佐倉市経済環境部環境保全課, 佐倉市.
- 吹春俊光・服部 力・腰野文男・大作晃一・野村麻結実・堀米礼子. 1995. 千葉県菌類誌 (I) 千葉県産大型担子菌類相. 千葉中央博自然誌研究報告特別号 (2): 125-155.
- Hattori, T. 1999. *Phellinus setifer* sp. nov. and *P. acontus*, two noteworthy polypores from temperate areas of Japan, with notes on their allies. Mycoscience 40: 483-490.
- 林 芳緒美. 1999. キヌガサタケ. 千葉菌類談話通信 (15): 19.
- Hjortstam, K. 1995. Two new genera and some new combinations of corticioid fungi (Basidiomycotina, Aphyllophorales) from tropical and subtropical areas. Mycotaxon 54: 183-193.
- Hjortstam, K. and K. H. Larsson. 1994. Annotated checklist to genera and species of corticioid fungi (Aphyllophorales, Basidiomycotina) with special regards to tropical and subtropical areas. Windahlia 21: 1-75.
- 本郷次雄. 1978. 日本産ハラタケ目の地理的分布. 日菌報 19: 319-323.
- 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 325 pp. 保育社, 大阪.
- 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315 pp. 保育社, 大阪.
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄. 1988. 日本のきのこ. 623 pp. 山と溪谷社, 東京.
- Ito, S. and S. Imai. 1940. Fungi of the Bonin Islands V. Trans. Sapporo Nat. Soc. 16: 120-138.
- 川名 興. 1997. 袖ヶ浦市のきのこ採集リスト. In 袖ヶ浦市史基礎資料調査報告書 11 袖ヶ浦の植物, pp. 77-78. 袖ヶ浦市教育委員会, 袖ヶ浦市.
- Kobayashi, T. 1993. A new subgenus of *Inocybe*, *Lep-tocybe* from Japan. Mycotaxon 48: 459-469.
- Kobayashi, T. 2002. The taxonomic studies of the genus *Inocybe*. Nova Hedw., Beih. 124: 1-246.
- Kobayashi, T. and R. Courtecuisse. 2000. Two new species of *Inocybe*, section *Marginatae* (Agaricales, Coritiniaceae) from Japan. Mycoscience 41: 161-166.
- 小林義雄. 1938. ヒメノガスター亜目及スッポンタケ亜目. 90 pp. 三省堂, 東京.
- 小林義雄・土居祥兌. 1970. 対馬の高等菌類. 国立科博専報 (3): 375-379.
- 腰野文男. 1996. 千葉県の北総台地でマツタケが採れた話. 千葉菌類談話通信 (12): 1-2.
- 腰野文男. 1997a. キヌガサタケの記録. 千葉菌類談話通信 (13): 6.
- 腰野文男. 1997b. 大栄町のキノコ類. In 大栄町史編纂委員会 (編), 大栄町史自然編, pp. 120-132. 大栄町.
- 腰野文男・吹春俊光. 1997. 湾岸都市千葉市のキノコ類. In 沼田 眞 (監), 湾岸都市の生態系と自然保護—千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告, pp. 379-396. 信山社サイテック, 東京.
- Maas Geesteranus, R. A. 1964. Notes on Hydnum II. Persoonia 3: 155-192.
- 長尾英幸・吹春俊光. 2002. 千葉県菌類誌 (III) 子囊菌類不整子囊菌綱および盤菌綱. 千葉中央博自然誌研究報告特別号 (5): 111-132.
- Nagasawa, E. 1998. A preliminary checklist of the Japanese Agaricales. II. The suborder Russulineae. Rep. Tottori Mycol. Inst. 36: 36-71.
- Nagasawa, E. and T. Hongo. 1981. *Tricholoma giganteum*, an agaric new to Japan. Trans. mycol. Soc. Japan 22: 181-185.
- Nagasawa, E. and S. Mitani. 2000. A new species of *Amanita* section *Lepidella* from Japan. Mem. Natn. Sci. Mus. Tokyo 32: 93-97.
- Núñez, M. and L. Ryvarden. 1995. *Polyporus* (Basidiomycotina) and related genera. Synopsis Fungorum 10: 1-85.
- Oda, T., C. Tanaka and M. Tsuda. 1998. Molecular phylogeny of Japanese *Amanita* species based on nucleotide sequences of the internal transcribed spacer region of nuclear ribosomal DNA. Mycoscience 40: 57-64.
- Oda, T., C. Tanaka and M. Tsuda. 2000. *Amanita sinensis*, new to Japan and Nepal. Mycoscience 41: 403-405.
- Oda, T., C. Tanaka and M. Tsuda. 2001. *Amanita imazekii*—a new species in *Amanita* section *Caesareae*. Mycologia 93: 1231-1234.
- Oda, T., C. Tanaka and M. Tsuda. 2002. *Amanita concentrica*—a new species in *Amanita* section *Amanita* from Japan. Mycoscience 43: 81-83.

- Pegler, D. N., D. J. Lodge and K. K. Nakasone. 1998. The pantropical genus *Macrocybe* gen. nov. *Mycologia* 90: 494-504.
- Ryvarden, L. and I. Johansen. 1980. A preliminary polypore flora of East Africa. 636 pp. *Fungiflora*, Oslo.
- Takahashi, H. 1999. *Marasmius brunneospermus*, a new species of *Marasmius* section *Globulares* from central Honshu, Japan. *Mycoscience* 40: 477-481.
- Takahashi, H. 2000. Two new species and one new variety of Agaricales from central Honshu, Japan. *Mycoscience* 41: 15-23.
- 寺嶋芳江・富谷建三. 2000. 千葉のバカマツタケ. 千葉菌類談話通信 (18): 2-3.
- Yang, Z. L. 1997. Die *Amanita*-Arten von Südwestchina. *Biblioth. Mycol.* 170: 1-240.
- 横山和正. 1995. 熱帯性きのこオオシロカラカサタケの京阪神地区(近畿地方)への侵入. *自然環境科学研究* 8: 13-21.
- 吉見昭一. 2002. 日本産ニセシヨウロ属. *日菌報* 43 (印刷中).

(2002 年 2 月 28 日受理)

Fungul Flora in Chiba Pref., Central Japan (II) Additional List of Macro-basidiomycetes

Toshimitsu Fukiharu¹⁾, Fumio Koshino²⁾,
Tsutomu Hattori³⁾, Koichi Oosaku⁴⁾
and Ryoko Onuma⁵⁾

¹⁾ Natural History Museum and Institute, Chiba,
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan
E-mail: fukiharu@chiba-muse.or.jp

²⁾ 1524-10 Sawara i, Sawara, Chiba 287-0003, Japan

³⁾ Microbial Ecology Lab.,
Forestry and Forest Products Research Institute,
Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan

⁴⁾ 2-84-10 Higashi-Hatsuishi, Nagareyama-shi,
Chiba 270-0114, Japan

⁵⁾ 991-130-201 Yahagi-cho, Chuo-ku, Chiba
260-0851, Japan

An additional list (part 2) of macro-basidiomycetes in Chiba, central Japan is presented on the basis of the specimens deposited in Natural History Museum & Institute, Chiba and on the published literature. Specimens were collected over a 7 year period, from 1 November 1994 to 6 December 2001, 5274 records (3926 specimens and 1248 information) were collected, and 115 taxa are listed as new for Chiba. Totally, 603 taxa (591 species, 8 varieties and 4 forms belonging to 49 families) are recognized in Chiba.